



令和3年度 校長だより

令和3年7月20日(火)

大野の風

No.6

文責 松下 義彦

1学期を終えるにあたって

今日で一学期が終わります。みなさん、一学期を振り返ってみてどうでしょうか。学習面や生活面、学校行事等において自分の力を発揮することができたでしょうか。

1学期は大きな行事として体育祭がありました。多くの方が自分の役割を果たし、一生懸命に頑張っていた姿が印象的でした。その甲斐あって、とても感動的な体育祭になったと思います。緊急事態宣言のために途中、中断を挟みましたが、3年生が何とか今年の体育祭を成功させるんだという気持ちを全面に出して、実行委員やリーダーを中心に3年生全員で1・2年生を引っ張り、汗を流しながら頑張っている姿をみて、校長先生はとても嬉しく思いました。学習面においても、各学年とも真剣に授業に取り組む姿が多く見受けられました。生活面においても、「あいさつ・掃除・服装・時間」を意識し、落ちついた学校生活ができていたと思います。この調子でぜひ2学期からも頑張ってください。

さて、1学期を終えるにあたって、みなさんに考えてもらいたいことを一つ話します。それは、「一学期の間にあなたの周りで、周りの人の心ない言葉や行動で嫌な思いをしている人や何らかの理由で学校に来られていない人がいることに気づいていましたか。」ということです。

世の中には、様々な人がいます。悩みを抱えた人や自分とは全く違うものの見方、考え方を持っている人もいます。一人ひとり、受けとり方も違えば、感じ方も違います。

「自分がこう思うのだから、人もこう思うはず」ではなく、みんな違うということ踏まえて行動したり、言葉を発したりすることが大切です。自分のモノサシ(=ものごとを評価する基準)と人のモノサシは違うこと、そして、お互いのモノサシを理解することができるよき人間関係をつくることができます。

ぜひ、お互いのモノサシを見つめるよう心がけて欲しいし、周りの人にもっと関心を持ってほしいと思います。そして、みんなが安心して生活できる楽しい学校をみんなの手で創ってほしいと校長先生は願っています。

みなさんは「花は紅、柳は緑」という言葉を知っていますか。

花は紅く咲き、柳(の枝)は緑色をしている。これは自然そのまま、あたり前のことであり、変えることができない自然の美しさを意味する言葉で、ものにはそれぞれ個性が備わっていることの例えとして使われている言葉でもあります。

私たちは、自分と他の人を比較して、どうにもならないことに思い悩むことがあります。たとえば、他の人と比べてこちらが優れていると感じたときは喜び、逆に劣っていると思えば、焦りや憤りが生じ劣等感に苦しみます。しかし、いくら思ってみてもどうにもならないことならば、あるがままの自分の姿を受け入れ、そこに自分の輝きを見いだしていこうと、覚悟することが大切です。その輝きこそが真の自分ではないでしょうか。他の人は他の人、自分は自分。決して他の人にはなれないのですから。私はそう思います。

最後に、皆さんは今日、通知表をもらいます。そこには、担任の先生が書いてくれた所見があります。そして、担任の先生が皆さんのよいところを書いてくれています。皆さんは、自分のよいところを知って伸ばすことが大切です。人は誰でも「強み」と「弱み」を持っています。自分が成長するためには、「強み」つまり得意なことを伸ばしていくこと、そして、「弱み」つまり不得意なことをなくそうと頑張ることが必要です。是非、通知表から一度自分を見つめ直して、自分の強みや弱みを確認してください。

夏休み期間中、事件や事故に巻き込まれないように、特に水の事故や熱中症には十分に気をつけて、また、新型コロナウイルスの感染症対策をしっかり行い、安全に夏休みを過ごしてください。9月に全員笑顔で会いましょう

